

平成29年度第3回まちづくり懇談会

1. 日 時：平成30年1月11日（木） 午後1時30分～
2. 場 所：市役所9階 第2応接室
3. 次 第
 - (1) 団体代表挨拶
 - (2) 出席者自己紹介
 - (3) 市長挨拶
 - (4) 懇談
 - (5) 集合写真
4. テーマ：「安心して暮らせるまち」

【議題】

- ①地域力を高めます
- ②減災（防災）について伝え広げていきます
- ③小さな頃からの学びを大切にします

●団体

本日は時間をとっていただきましてありがとうございます。委員長をしております今井と申します。今日懇談会の場を設けさせていただきました。私たちが日ごろ活動している中で聞いている、生の声を市にお届けして、地域に生かしていけたらなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○市長

よろしく願いします。

●団体

では早速、私たちの提案項目を、今回3つほど提出させていただいたかと思えます。まずその1つ目、「みらいひろば」からお話しさせていただきたいと思えます。

私たちはいつでもどこでも誰でも参加できる、地域に開かれた場ということで「みらいひろば」を市内11カ所で行っています。場所は市の施設や自治会館、公民館なども利用して行っております。いろいろな「みらいひろば」があ

るので西船橋から順番に、紹介していきたいと思います。よろしくお願ひします。

●団体

西船の「みらいひろば」

行田公園近くの店舗の上で開催しています、子育て中の若いママが多くて、託児を無料でしているので、息抜きができるということで、たくさんの人に来ていただいています。

ふだんは食の話や子育ての話が多いんですけど、いろいろな情報共有をしています。3月と9月は防災とか減災の話をする事が多くて、ローリングストック※とかの話をするんですけど、私はこの活動をするまで全然知らなくて、聞いたときにすごく感動して、広めようと思って話しをしています。その中でカップラーメンを備蓄するといひよという話をしたんですけど、カップラーメンって防災食に好ましいと思ひますか。

(※ 日常生活の中で大目に食料を買っておき、使った分だけ補完することで一定の備蓄を行うことができる)

○市長

そのままかじれるし、いろいろな使い方があるのでいいと思ひます。私もローリングストックを広めるために、いろんなところで話しています。

●団体

そうなんです。カップラーメンは水を入れて1時間で食ひすることができるんですよ。ローリングストックのチェックリストがあつて、「みらいひろば」とかでみんなに差し上げて、ふだんこひうのをちゃんと備蓄しておくといいよとみんなに知らせています。

●団体

市役所のそばにある石井食品で「みらいひろば」。
ここでは午前と午後の2回に分けてやっており、午前の部は、近所の若いお母さんたちが多く気軽にふらつと来ていただけるような場所になっています。託児はフリースペースで、ガラス張りになっているので子供たちの様子が見えまひすし、すごく開かれた感じですか。こどもから離れてリフレッシュできる、そんな感じでいろいろな悩み事などを相談できる場所になっています。午後の部は

シニア層の方が参加されていて、もう人生の先輩なので、何でもひとしきり知っていらっしゃって、自分たちでこれを食べたいねと言うと、ほんとうに手際よくさっと仕上げ、すごく勉強熱心でいろんなことを学習したいという感じで集まってこられます。市役所からすごく近く、市長が行ける一番近い「みらいひろば」ですので、ぜひ足を運んでいただけたらうれしいなと思っています。

●団体

薬円台、前原、くらし館津田沼の「みらいひろば」。

薬円台は薬円台公民館の隣の店の中でやらせていただいております。ここでは1つの部屋に、右が託児で左のほうで交流をしているという感じなので、泣き声もダイレクトに聞こえてきたり、時々お歌が入ったりして、とてもにぎやかなみらいひろばをやっています。前原ではアルビスの前原団地の自治会館をお借りしております。あと、くらし館津田沼は田喜野井の昔お店があったところ、2階がデイサービスセンターなんです。下の集会室で、年に何回か、お茶の間会というおしゃべり会をやらせていただいておりますが、自治会の会長さんや前会長さんにいろいろつながりがあってお話をさせていただいています。

メンバーが、最初は3人だったんですが、現在は13人に増えました。「ここでやっと皆さんとお話することができました。」という方もいらっしゃったので、こういう場があるのはとてもいいことなんだなと感じております。

●団体

金杉団地の集会所を利用し金杉の「みらいひろば」。

ご年配の方が多くて、近隣に買い物する場所も少なくなっていて困っていたり、ひとり暮らしをされている方もいらっしゃいます。ふだん生活している中では、話し相手がテレビというような方もいらっしゃって、そういう方が月に1回このひろばをととても楽しみにして来ていて、皆さんとお話しして交流できることがとてもうれしいという声を聞いていて、私たちもその場をつくっていることをすごくうれしいなと思っています。

年配の方たちの中には、戦争とか伊勢湾台風などの実体験の話をしてくださる方もいらっしゃるので、私たちが伝えるだけじゃなく、教えていただいている場でもあり、とてもいい経験をさせていただいているなど、私自身も思っています。

同じ会場で、船橋市が主体となっていて、今すごく盛り上がっているシルバーリハビリ体操もしました。

○市長

シルバーリハビリ体操ですか。

●団体

はい。「みらいひろば」に来てくださっている方も、シルバーリハビリ体操に参加しているという方がいらっしゃっているので、シルバーリハビリ体操に来ている方たちも、ぜひ「みらいひろば」にお顔を出していただけたらうれしいな思っています。

○市長

いいですね。

●団体

坪井東に住んでおり、子供たちが遊ぶ広場はすごく広いんですけど、雨が降ったりすると行き場がなくて、どうしようかなんてすごく困っていたんですけど、ついに児童ホームができることになって、子供も、周りのお母さんたちもすごく喜んでいきます。

わたしたちの「みらいひろば」船橋東は新しい住宅街と、古和釜や松が丘の方たちが参加しています。

○市長

会場はどこでやっているのですか。

●団体

松が丘の公民館の近くの店でやっています。

ここでは年配の方、ご夫婦2人で住んでいる方とかも結構多いんですけど、そういう方は若い方の子育てをしている姿をじかに見られたり、逆に、若い方がマンネリ化した食事とかを悩んでいたりとすると新しいメニューについて話かけたりしています。若い方たちって自分の親が直接言っても素直に聞き入れられないんですけど、ちょっと近いけど自分と直接つながっていないご年配の方から聞くと、いろんなアドバイスを素直に聞けたりして、すごくお互いがお互いに刺激を受けて楽しい場になっているのが、この船橋東の特徴です。

●団体

三咲と小室の「みらいひろば」。

三咲の「みらいひろば」では、三咲公民館をお借りして開催しているんですが、ここでは初の男性のメンバーの参加者があったところなんです。その方が「みらいひろば」に参加されたきっかけというのが、ご自身の自治会に「みらいひろば」で得たものを持ち帰って役立てたいという思いから参加したということだったんです。

その中で、いろいろ毎回やっていることがあるんですけども、防災関連でHUG※とか食に関することとか、いろいろなことを毎月やっているんですが、今でも毎月コンスタントに参加してくださっているのがとてもありがたいです。

(※HUGは 色々な避難者、会場のレイアウト、トラブルが書かれたカードを使って避難所の運営をするゲーム)

ただ、男性の参加者ってなかなか増えなくて、少しずつでもいいので男性の参加者を増やしていきたいなとずっと思っておりまして、市長でしたらどういったことをしたら参加しやすいかそういったアドバイスがあればお聞きしたいです。

○市長

実は市でも同じ悩みを抱えていて、来ない人にどうやって出てきてもらうかというのが一番大きなテーマとと思ってます。近所づき合いをしている人でも、多分女性がいっぱいのところって、最初に行くのはものすごく男性としては抵抗があるんですよ。

だから普段とは全く視点を変えちゃって、男性のための企画、料理でも試食会でも何でもいいんですけど、そういうものを作っていくと、男の人は入りやすいかもしれないですね。そこにお手伝いとしてふだん入っている会員の人に入ってもらって、それが一番近道なのかなという気はします。

●団体

その男性も試食したいと言って来ました。(笑)

○市長

男って、何か自分で行きやすい理由が必要なんです。(笑)

●団体

どうもありがとうございます。

小室は、小室の中央自治会館という場所を今お借りしていて、年配の方を中心としたひろばになっており、小室地域の社協の方も参加もしてくださるので地域の情報を得る場ともなっております。

そこでもシルバーリハビリ体操がすごく盛んに行われていて、その後にお茶会をやったりとか、そういった形で地域の活性化にもつながっているんですけども、さらに活性化したいということで市のほうとしてもシルバーリハビリ体操以外にも手軽にできるようなもので、小室の方々の地域の活性化のためになるようないいアイデアがあれば、またここで教えていただきたいという気持ちがすごくあります。

○市長

環境としては非常にいいところですけど小室はシルバーリハビリ以外の仕掛けてちょっと難しいんです。シルバーリハビリ体操は茨城県で介護認定率を圧倒的に下げた実績のある体操です。それを船橋市でどういった形でやるだろうということで、1年かけて研究してやり始めたんですけど、シルバーリハビリ体操の指導士は市民なんです。ですから、まずは指導士講習をやって、全地域で回せるように今1,700人ぐらいまで増やそうと、地区社会福祉協議会とかと協議をしてもらっているところです。

●団体

ありがとうございます。私たち、実は3人、高齢化の進んでいる金杉や松が丘、小室地域などを担当しているので、前年度、指導士の認定講習を受講しました。

○市長

指導士になられました？ありがとうございます。

●団体

なかなかお手伝いする機会がなかったんですけども、一度、市の方と一緒にシルバーリハビリ体操の講習会のお手伝いもさせていただいたりしております。

あとは自分たちが直接ボランティアで携わる時間は短いのですがこういった体操がありますよということは、3人いつも皆さんに広げているので。

○市長

ありがとうございます。講師としては、あの中で一番若いほうじゃないですか。

●団体

その回、その回ごとに「一番若いよね」と参加された方からお声をかけられました。

○市長

引き続きよろしく申し上げます。

●団体

私たちの中に、1人男性がいるのがちょっと気になるかと思うので、自己紹介を軽くしていただいたほうがいいかなと思います。

●団体

生協の仕事で配達をいろいろしている中で、薬円台とかも配達したことがあって、あそこはいいなと思っていて、今は引っ越して、薬円台に住んでいます。

○市長

そうなんですか。

●団体

「みらいひろば」というのは、組合員だけでなく、一般の人たちにも間口を広く敷居を低くして、いろんな人たちに入ってきてもらいたいという思いがあつての場なんです。

地域社会を元気にする取り組みということで、それぞれの「みらいひろば」の紹介をさせていただいたんですけど、市長さんのほうから、聞いてみたいということはありますか。

○市長

皆さんのやっただいていることはとても大事で、例えば今1人で住んでいる人が市内に3万人以上いるわけです。老老世帯も3万世帯ぐらいいるので合わせて6万世帯いるわけで、そういった人たちが行く場所についてと、人口が増えて移り住んで来れる人がいる分、そういう人たちが行く場所についてもどこへ行っていいのかわからないという人がたくさんいるわけです。

そういった中で、みなさんが各地域でやっていただいているのはとても心強いです。市も地区社会福祉協議会において、子育てサロン等のいろんな事業を年間通してずっと行っています。皆さん思いが強いので、自分たちが主体でやっていかなきゃという思いを非常に強く感じたんですけど、市がやっている事業連携をしていくという考え方はどうでしょうか。

●団体

今、一生懸命私たちの活動についてお話ししたのでそう受け取られたのかもしれないですけど、市長が言って下さったように、地域でそういう皆さんをつなぐ役割をしたいと思っています。市役所との連携をどういう切り口でやっていっているのかというのが、私たちの活動の中で一番悩んでいるところです。

今日、こういう場でお話をさせていただくことで、地区社会福祉協議会などに出向いていったときに、私たちの活動を理解していただけて、少し話がしやすくなったり、一緒にできたら一番いいかなと思っているところです。

○市長

地区社会福祉協議会も、それぞれの地域で活動しているんですけど、そこで事業を立案している人たちがいるわけですよ。そこに、生協です、と言って行くと、ちょっと構えてしまうかもしれないです。生協でもこんなことをやっているんですけど、地区社会福祉協議会では最近どんなことをやっているか教えてくださいかという感じで行って、例えば地区社会福祉協議会でやっていることも、生協に来ている人たちに紹介させてもらいますからみたいな感じで入っていってもらって仲よくなってもらうのが一番いいですよ。

そちらは地区社協で、私たちは生協です、という形で行くと、お互いにテリトリーができちゃうので、それよりも情報交換みたいな形で行ってみて知り合いになってもらうのが一番いいかもしれないです。

●団体

参加される方にとってはどこも一緒だと思うんです。私達と市がコミュニケーションをとっていかないといけないのかなと。

○市長

やっぱり生協だと会員拡大のためにやるんじゃないのかと思う人は当然いるわけなので、だからそうじゃなくて会員は会員として、地域貢献活動のような

ものを幅広くやり始めています、みたいな入り方でいってもらえるといいかなと思います。

●団体

ありがとうございます。人と仲よくなるのは私たちの得意分野ですので。

○市長

そんな気がします（笑）。

●団体

では、提案項目2つ目のほうに進ませてもらいます。「減災（防災）についても伝え広げていきます」というところの話をさせていただきます。

私たちの事業単位内には4市、船橋市、市川市、浦安市、習志野市とあるんですけども、船橋市以外の市川、浦安、習志野のほうからは防災訓練への参加要請があり、出展もさせていただいているんです。ここでは、減災チェックシートというのを見てチェックしていただくことで、日ごろの備えの見直しにもなるので、非常に好評で、たくさんの方がブースのほうに来てくださっています。船橋市からもご要請があれば、ぜひご協力させていただきたいと考えております。

○市長

防災訓練ということだったんですけど、訓練会場にそういうのがあるということなんですか。

●団体

浦安市の場合は訓練会場の中で、周りに出展ブースがあり、その一端でテントを張ってやっています。

市川市は環境・防災フェアということで、防災関連のことを集めたブースがありました。

○市長

実は、船橋の防災訓練は他市とは全く違うんです。全国でもこのやり方はあまりないんですけど、全部の小中学校で防災訓練を行っています。以前は1カ所に会場を作って、そこで大規模な訓練をやったんですけど、そうなる所以外のところは実質的な訓練ができないということで、メイン会場方式をやめちゃったんです。そういう経緯があって、それぞれの地域でそれぞれの人たち

に意見を出してもらって、こういう訓練をやりましょうということでやっています。だから地域によっては中学校も参加をしたりとか、ペットの訓練をやったりだとか特色があるんです。そんなわけで、ブースを設けるってちょっと難しいんです。

けど一方では、防災訓練とは別に1月27日に防災フェアというのをやっているんです。そこでは、防災の関係のグッズを販売しているところとか、あとは建築士会とかいろんな人たちがブースを設けてやっています。こういうのでブースをやるけどどうですかと危機管理課のほうに言ってもらって、それで参加をしてもらえればと思います。

●団体

東日本大震災の後からずっとこの「減災チェックシート」を使って「みらいひろば」の中でもやっていただいたりしています。

○市長

HUGも、避難所運営のことなので、それぞれの会場で、それぞれの地域でやってもらうんです。要するに避難所でやらないとリアルじゃないんです。図面を持ってきて、その中学校の体育館があって、教室があって、こういう人が来たときにどうします、というようなことは、それぞれの避難所でやるようにしています。

ただ、とにかく意識を持って、さっきのローリングストックみたいに一人でもそういう気づきを持ってもらうのが大事なので、またぜひよろしくお願いします。

●団体

次に私たちがずっと行っている被災地支援と復興応援のお話をさせていただきます。

東日本大震災が起きて、何か私たちもしたい、でも遠くて行けない、何をしたらいいのとずっと自分も思っているし、周りの人もみんな思っているという状況の中で、そういう人たちのお話を聞いたり、気持ちに寄り添ったりというのを、毎月1回、お店の集会所を使いまして、ずっとやっておりました。

募金箱を置いて被災地の特産品を買ってもらうとか、その特産品の料理レシピをいただいて、みんなに意識していただくという活動をしたり、実際に活動

されている方と一緒に現地に行き、不足な品があったら「みらいひろば」のメンバーに一斉に声をかけて、それを持っていったり、メッセージカードを皆さんに書いていただいて、お花の形にしたりして届けたりとか、そんな活動もしながらずっとやっておりました。

あるとき、習志野の社会福祉協議会が主催イベントに参加したとき、東邦大学ボランティア部を立ち上げた学生と出会いました。彼はちょうど高校生のときに震災があって、ほんとうに何かしたい、飛んでいきたいと思ったそうです。その後、大学に入りボランティア部を立ち上げました。初めは1人から始めた活動が、バスツアーを組んでいけるぐらい、総勢150名まで膨れ上がっています。その今までの道のりを、習志野市の公民館で地域の人を集めて、発表をしたのが、2年前です。その後に熊本の震災が起きまして、熊本大学の学生が大学を自分たちで避難所として立ち上げて、地域の人を何千人と受け入れた、3日間は学生だけで乗り切ったという話をニュースで聞きました。私たちには東邦大生と日大生がいるじゃないかと思ひまして声をかけ、HUGを去年の3月1日にやりました。

船橋では、いろんなところでHUGをやっているのは知っていましたけれども、私たちも習志野や船橋の「みらいひろば」でどんどんHUGを広めて、いろんな人が経験しております。

○市長

今、お話があったように、実は阪神・淡路大震災がここら辺の自治体にとっては一番の防災のモデルです。東日本大震災は確かに津波で多くの人命も失われたし、被害も大きかったですけれども、ただ都市型災害の見直しの原点になっているのは阪神・淡路大震災です。船橋もずっと継続的にいろんなことをやってきているんですけど、その当時を覚えている人が少なくなっています。

東日本大震災のときも、もう7年前なので、例えば今55の人間はその当時47、8だったんです。そうすると、補佐でいた年代です。自分が陣頭指揮をとった年代ではなくて、補佐で脇にいて指示を受けていた人たちが今トップになってきているんです。当時トップとして指示を出していた人たちは誰もここにいないんです。多分私と副市長ぐらいです。これが実践になったときに一番危惧しているところです。

さっき学生さんとコラボしていると言っていましたが、これは大学生、高校、中学、みんなそうですけど、平日の昼間に起こったときの連携の仕方というのは、学生たちとの連携の仕方が非常に大事だし、震災が起こった後のことは、結構被災地の生の声とタイムラグがあると、どうしても難しいところも出てきますが、節目節目でこういう活動はいろんな人にやっていただきたいし、これからもぜひお願いしたいなと思っています。

●団体

ありがとうございます。では、その若い学生さんとのつながりもありつつ、さらにもっと小さい子たちの小さいころからの学びも大切にしているというところで、提案項目の「小さな頃からの学びを大切にします」ということで、毎年協力している「いきいきフェア」の話をさせていただきます。

○市長

毎年ありがとうございます。

●団体

コマツナのことについてちょっと触れさせていただきたいと思います。「ふなっこ畑」や「こまつなう」というイベントで、コマツナを扱ったピザなどを食べたりしてきたんです。

いろんな地域のお店で、コマツナを使って、お料理を出しているというのも知らなくて。

地元のものを食べることはすごく大切だなということをふだんから話していて、地産地消(千産千消)を消費者展のほうでもずっと推進していくように分かりやすい展示物を作っています。船橋はすごく恵まれた場所だし、やっぱり地元のもの食べていくことはすごく大事だなと思っているので、これからも推進していきたいなと思っています。

ふだんからつながりがある船橋市農産物供給センターにコマツナのいろんな知識を知りたいなと思って訪ねて行って、いろいろ伺ったりしたら、いっぱい種類があるんだということもわかりました。コマツナでも女性の名前がついた種類とかいろいろあり、今回「よかった菜」という種類を勧めていただいて育てました。

その種を使って私達、何軒かで育ててみたらすごく青々と立派に育ちました。農家の方が育てているものと、素人が育てたものの対比や、子供たちが実際に来て触れたり、軸を切ったところがどういうのになるのかというクイズもしたんです。

もともとコマツナとかは嫌いという子供は多かったですけど、その場でとりたてのものを食べたりすることで、すごく好きになってくれたりすることもあるので、子供に対する食育はすごく大事なのかなということを私たちも身近に感じました。

○市長

そうですね。船橋は都市農業が非常に優秀で、船橋のコマツナは船橋の市場だけでなく、大田市場にも結構出しているんです。昔から大田市場で評価が高く、同じコマツナを出しても競り値が高いんです。

今、市のほうでは給食で必ず地場産の野菜を使う日とかというのをやっています。スズキの水揚げが日本一なのは知っていますよね。だからそういう食材を使った料理を必ず食べるようにしています。

あとは西船にコマツナ農家の若手が非常に多くて一生懸命やっているんです。彼らは食育のことが注目される前に、自分の畑に子供たちを連れてきて、子供たちに野菜ってこういうところだとれるんだよというのを見てもらって、4年ぐらい前に内閣府から農業青年としては全国で初めて表彰されているんです。

それでさっき言った「こまつなう」も彼らがみんな考えたし、若い人たちの考え方がすごいなと思ったのは、つくったレシピをどんどん変えていったんです。今コマツナのピザとかってあると思うんですけど、実はあそこに行きつくまでにもものすごく試行錯誤していて、コマツナの種（しゅ）って100種類以上あるらしいんですけど、どの種がピザにしたときに合うか、火を通したときに食感がちゃんと残るコマツナってどれだということを、ちゃんとわかっています。だから彼らは十分講師にもなれるから、何かの機会にそういうのを願いますのもいいかもしれないです。

ほんとうに子供たちの教育って未来への投資なんですよ。小学生は10年たったらもう成人しちゃうので、市も食育含めて、今主権者教育とかいろいろ

独自のやり方を始めているんですけど、やっぱり子供たちと話をして、自分の年になって改めて思うのは、環境が変わっているだけで子供って昔と変わっていないですよ。

だから相田みつをさんの「育てたように子は育つ」という言葉があったんですけど、まさしくそのとおりで、気づきだとか価値観だとかというのは、やっぱりみんながもうちょっと大事にしていかなきゃいけないし、先生方も頑張っていると思います。先生方ともそういった意味ではいろんな交流があると、また次のアプローチができるし、食育含めてそれは大事にやっていきたいと思っています。

●団体

ありがとうございます。「いきいきフェア」とかに出ることによって、ほかの団体さんとのつながりが出来ることを私たちはすごく大切にきて、ここでのつながりを大事にまた次のステップという形で私たちは取り組んでいます。

最後の最後になってしまったんですけど、市長のほうからお言葉をいただけますか。

○市長

今日はありがとうございました。さきほどの防災に関する補足ですが、女性の防災モニターについてです。3年目になるんですけど、女性の視点での防災のハンドブック等つくったり、備蓄品も女性の意見で新たにそろえたりとかやっているんですけど、もしよければ、公募しているので参加して頂ければと思います。防災士の女性や女性消防団の人とかいろんな人が入ってきているんです。おっしゃられているように、いろんな人とのつながりをつくる中で、防災も網の目のように、縦糸、横糸にして丈夫にする必要があるので、よかったら参考にしていいただければと思います。

今日はほんとうにありがとうございました。船橋市がちょうど去年が80周年で、人口も63万を超えました。去年80周年のイベントをやったときに私が改めて思ったのは、船橋は昭和40年代に全国から移り住んでいる人がものすごい数いるんですけど、それから既に40年ぐらいたっているんです。

その時の方々が自分の家庭を持って子育てをしてきて、自分の人生の歴史の大半を船橋で過ごし、船橋に思い出を持っている人がものすごく多いわけなん

です。だから80周年に対する思いって、私が思っていた以上に、いわゆる移り住んできた人たちも、ものすごく意味を持って受けとめてくれたんです。

今も新しく移り住んでいる人たちがもたくさんいます。昭和30年代半ば、40年代は、もともと住んでいる伝統的な船橋の生活の仕方をしてきた人と、全国からいろんなやり方、考え方を持った人たちが来たんですけど、新旧住民のコミュニケーションをどうやってとるかがまちの課題だったんです。それが学校、子供たちを軸にして連携をすることでコミュニケーションができてきたまちなんです。

昔、船橋って次男、三男のまちだと言っていた人がいたんです。実家は長男が跡を継いでいて、次男、三男の人が実家を出る。その移り住む先が船橋市なんだ。そういった意味で次男、三男のまちと言っていたんですけど、でもその人たちが子供を育て、いつの間にか、船橋で生まれ育った子が長男、次男、三男とたくさん住んでいるまちになっています。人口が大きくなっている分、そういう人たちがいろんな意味、いろんな形でつながってほしいなと思います。

今、船橋で起こっていることの 하나가、30代、40代の若者たちが、自分たちで企画をしてまちづくりをどんどんやるようになってきているんです。

今年の秋ごろなんですけど、「きらきら眼鏡」という映画、あれはもうまさしく葛飾中の卒業生の森沢明夫さんという人、高倉健さんの最後の作品とか、吉永小百合さんの映画祭で賞をもらった作品の原作者なんですけど、その人が西船を舞台にして書いたものを若者たちが映画にしたんですね。かなりお金がかかるんですけど、自分たちで全部マネジメントをやって、炊き出しから何からみんなやったりしていました。

あと、ミュージックストリートというの、仕事が終わってから1年間かけて、もう終電になるまで議論を重ねてやったりして出来たんですね。その場では、小学生から70歳ぐらいの人までボランティアで入って、道案内を一緒にやっていたりとか、いろんなつながりも出てきているんです。

皆さんには、行政的には防災の協定だとか、あとは見守りの関係でお手伝いしていただけてますけど、市ともっといろんな連携ができるとすると、市の今やっていることを、もっと知っていただきたいし、呼んでいただければ、いろ

いろなことにに関して出前で講師をお送りできるので、そういう勉強会もやってもらって、それをベースにしてお互いにディスカッションすると、もっと何かいろんなことができるのかなという感じがしました。これからもよろしく願いします。

○一同

今日はありがとうございました。

— 了 —